

山口県における 2012 年の スギ・ヒノキ花粉飛散のまとめ

[報告：山口県医師会理事（前花粉情報委員長） 沖中 芳彦]

昨年秋の観察定点における雄花の着花状態から、今シーズンのスギ花粉飛散総数を、県内測定施設の平均値として、平年値(最近 10 年間の平均) 2,400 個/cm² に対し、2,100 個程度と予測しました。

何度も積雪を認めるなど非常に寒い冬となったためか、スギ花粉の飛散開始日は 2 月 22 日と委員会発足以後で最も遅くなりました。最多飛散日は 3 月 8 日、次いで 3 月 11 日で(図 1)、全測定機関の飛散総数の平均値はほぼ予測通りの 2,110 個/cm² でした。相変わらず、飛散数は地区による差が著明で、東部、特に光、柳井地区が多く、西部は少なく、両者の差は 4 倍以上でし

た(図 2)。結果的には予測通りとなりましたが、花粉飛散はシーズン中の天候次第でどうにでもなります。例えば、今シーズンも、飛散の最盛期に春一番が吹いていれば、飛散総数が 300 個程度は増加したことでしょう。

一方ヒノキは昨年(2,200 個)の 3 割程度を予測していましたが、実測値はその半分強の約 350 個/cm² でした。(図 3)。ヒノキの花粉形成には飛散期直前の気象が影響するらしく、前年秋の花芽の数がそのまま花粉数に反映されるわけでもないため、ヒノキ花粉数の予測の難しさを痛感しています。

筆者は 1998 年に山口県医師会花粉情報委員会

図 1

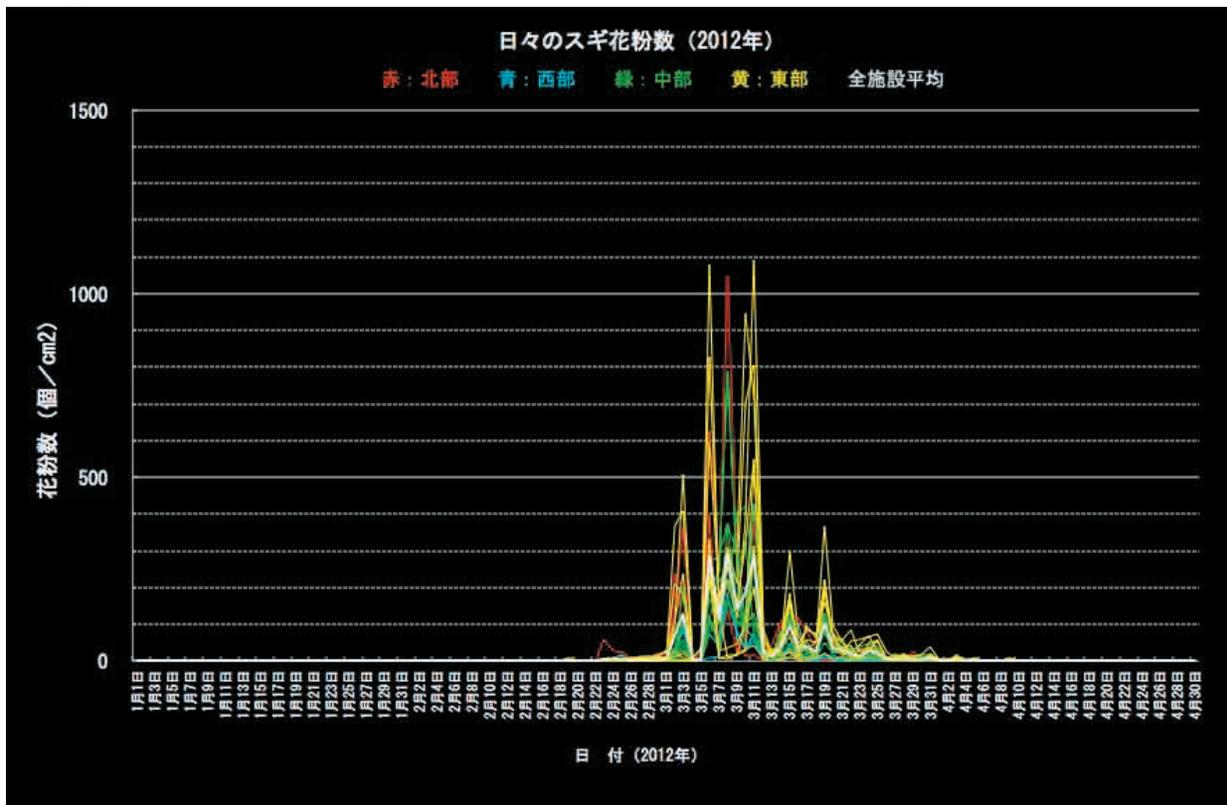


図2

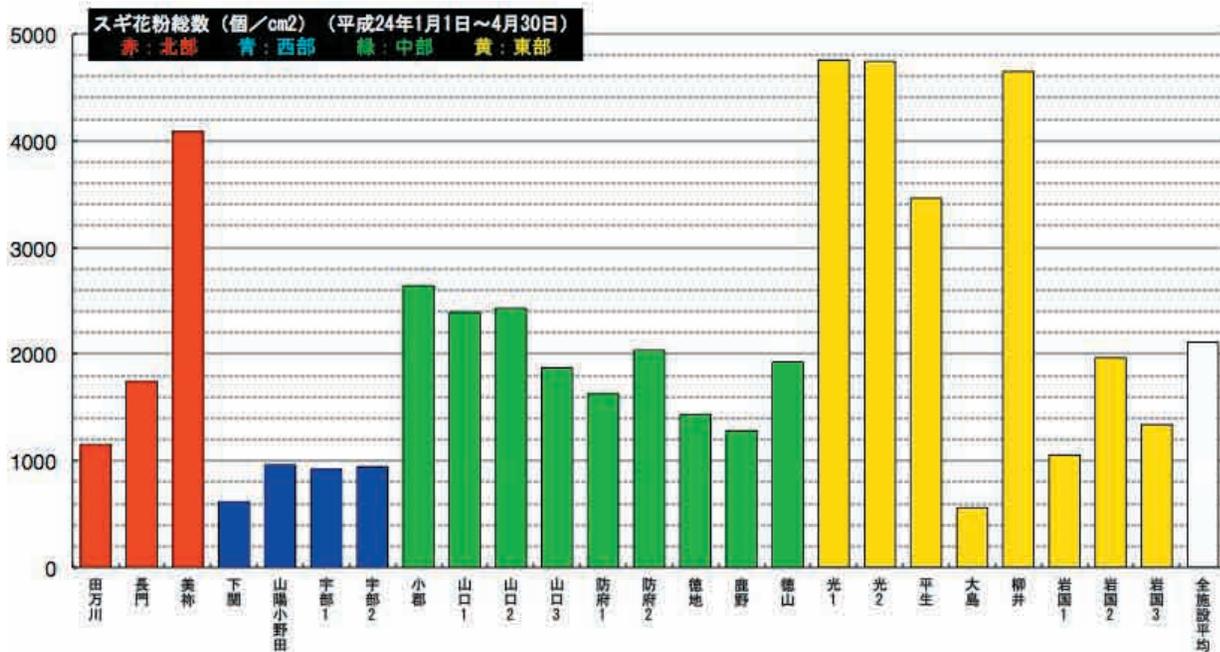


図3

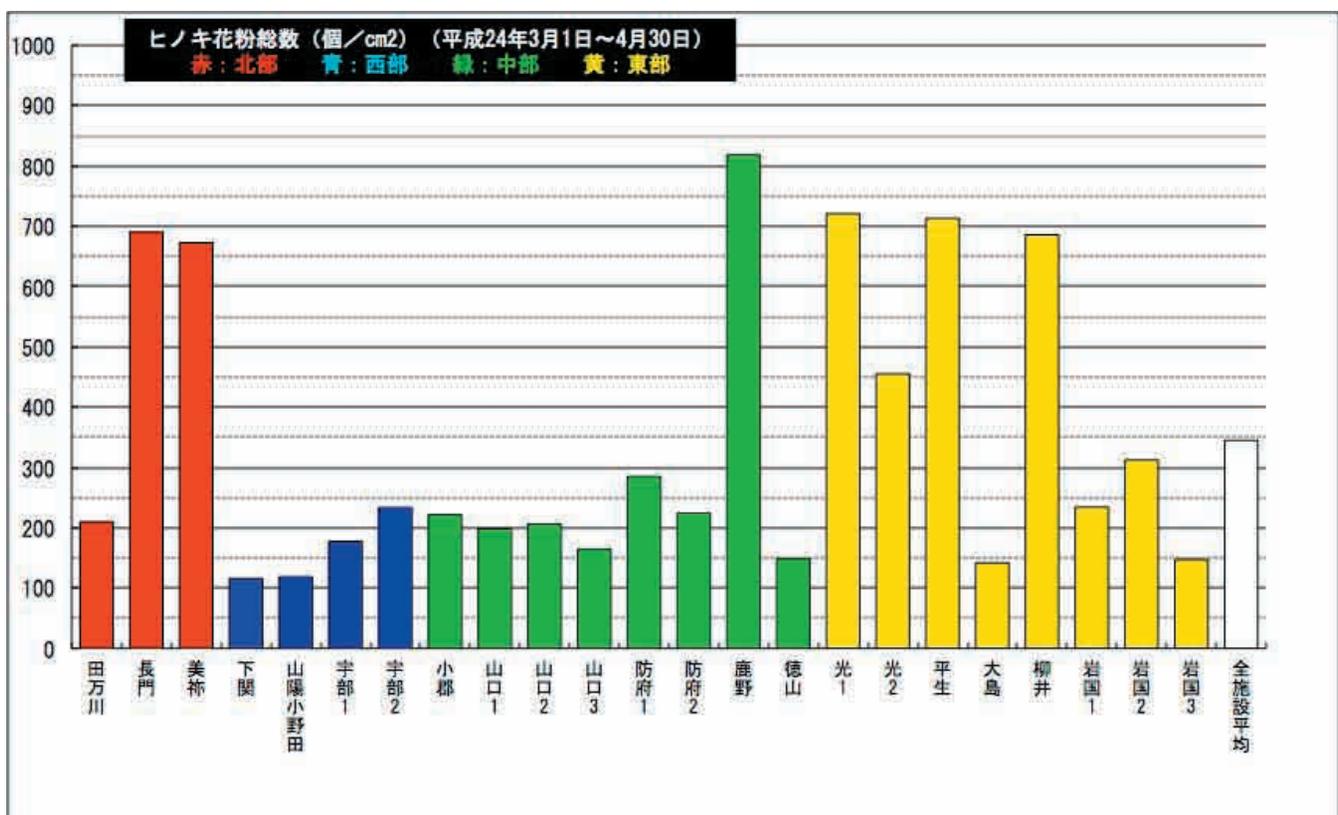


表 1 スギ花粉総数の予測値と実測値

	予測	実測	自己評価
2001 年	3500 - 4000	3840	◎
2002 年	2000 程度	1890	○
2003 年	2500 - 3000	3100	△
2004 年	200 - 300	260	◎
2005 年	3500 - 4000	3750	◎
2006 年	1500 程度	1790	△
2007 年	1500 程度	2440	×
2008 年	2000 - 2500	1750	×
2009 年	3400 程度	3600	○
2010 年	900 程度	570	×
2011 年	3500 程度	5200	×
2012 年	2100 程度	2110	◎

数字は、全測定機関の平均スギ花粉総数（個/cm²）

の委員長を仰せつかりましたが、1997 年のシーズンからスギ花芽の観察を開始し、2000 年から独自の方法でスギ花粉数の予測を始めました。そして翌 2001 年から毎年、予測とまとめの拙文を医師会報に掲載させていただきました。2012 年 3 月末で花粉情報委員を卒業させていただくことになりました。反省の意味も込めて、この間の予測と実測の結果をまとめました（表 1）。最初の頃はそこそこの中していたのですが、ここ数年は予測通りにならないことが多くなりました。予測のために 20 数か所のスギの木を観察していますが、工事で切られたり、台風で倒れたりするなどして観察木がなくなってしまい、その代わりに

新たな観察木を加えるということの繰り返しでした。そのために着花率と花粉数の相関が年々悪くなってきたことも原因の一つですが、委員長としての最後のシーズンに取り敢えずはほぼ予測通りの結果を得ることができ、安堵しているところです。本年度からは理事として花粉情報委員会にかかわらせていただきますので、引き続きよろしくごお願い申し上げます。

自動車保険・火災保険・積立保険・交通事故傷害

保険・医師賠償責任保険・所得補償保険・傷害保険ほか

あなたにしあわせをつなぐ

株式会社損害保険ジャパン 代理店
共栄火災海上保険株式会社 代理店

山福株式会社

TEL 083-922-2551